



「自分で決める」「覚悟を持つ」

～進路説明会での話から～

29日金曜日に、関東甲信地方が観測史上初めて6月に梅雨明けしました。

連日最高気温が30度を超え、真夏のような暑さが続いています。先週27日水曜日に3学年の生徒と保護者の方を対象に、今年度第1回目の「進路説明会」が開催されました。会場の体育館は座っているだけでも汗ばむような状況で、決して良いコンディションとはいえない環境でしたが、生徒達は真剣な面持ちで参加していました。

今回は具体的な進路決定の流れの説明の前に、進路選択にあたっての考え方についてお話をさせてもらいましたので、その内容を掲載したいと思います。

中学生にとって進路決定は避けては通れない道ではありますが、単に進路が決まれば良い、ということではありません。中学を卒業して進路が決まる…それがゴールではないからです。進路選択の結果、次のステージでの生活がスタートします。大切なはその先なのです。

例えば、もうすぐ総合体育大会があります。部活動を続けてきた3年生にとっては、最後の勝負のときまであと10日あまり。子供たちは毎日朝早くから練習し、放課後も夕方まで練習に励んでいます。(勉強もそのくらい頑張ってくれるといいのにねえ…)というため息混じりの保護者の方のつぶやきが聞こえるようです。

では、なぜ彼らは部活動をそこまで頑張れるのでしょうか。

それは、自分で決めて始めたことだからです。部活動については、加入するかしないかも、どの部に入部するかも、すべて自分で決めます。誰かの助言や影響はあるかもしれませんが、最終的には子供たちが自分自身で決定しています。自分自身が決めて始めたことは、やはり頑張りたい…。子供たちは程度に差はあるものの、みんなそう思っているはず。

進路についても、この過程を経て決めることが大切だと思います。ですから、進路選択にあたって一番大切なことは「自己決定」、自分で決める、ことです。

また、中学校生活を終えて、進路を決めて新しい場で新しい生活を始める…ということは、あたりまえのことのようですが、決してあたりまえではありません。これまで過ごしてきた義務教育とは違う環境へ行くわけですから、そこには必ず持って行かなければならないものがあります。

それは、自分自身の「覚悟」です。子供たちは、小さい頃から同じ地域、同じ場所で同じ学習をしてきました。しかし、中学卒業後はそれぞれが自分自身で選んだ環境へと進んでいきます。自分の行き先を周囲の流れのままに決めてしまったり、誰かに言われるがまま何となく決めてしまったりした場合、ちょっとしたつまづきでも耐えられない可能性があります。大切なのは(自分はここで生活していくんだ、ここでこういう未来を築くんだ)という覚悟です。そのために一番必要なのが、「自分で決める」ということなのです。

子供たちは、これから多くの人と出会い、多くの体験を積み重ねながら、一步一步大人に近づいていきます。「自分で決める」ことと、決めた事に対して「覚悟を持つ」ことを通して、進路決定に至るまでの道のりが意味のある体験になるよう願っています。